



地域に生きる知恵と技を つたえる・つなげる・未来へ

～未来につなぐふるさと応援事業 優良事例集～



熊本県では、農林水産業や農山漁村の多面性をさらに発揮させ、持続可能で元気な農山漁村を目指すため、さまざまな取り組みを進めています。

その取り組みの一つとして、「未来につなぐふるさと応援事業（旧 中山間地域サポート推進事業）」を実施し、中山間地域や棚田地域において、農地や土地改良施設等の利活用の他、それらの維持保全の大切さを普及・啓発する地域住民活動等の支援を行っています。

この事例集は、平成 30 年度（2018 年度）及び令和元年度（2019 年度）に本事業を活用された皆様の活動内容や成果の中から、今後、同様の活動に取り組みたいと考える方々への参考になると思われる事例を取りまとめたものです。

新たな活動をはじめめるきっかけや次のステップに進むための「つながり」をつくる際の参考として、ぜひご活用ください。

令和 4 年（2022 年）3 月

熊本県 むらづくり課

事例紹介 2



指導員等活動支援事業（指導員等地域活動支援事業）

- | | |
|----------------------|---|
| 事例① 沢畑 亨 指導員 水俣市 | 2 |
| 事例② 檜木 すみ子 指導員 阿蘇市 | 4 |
| 事例③ 豊かな大江の里づくりの会 天草市 | 6 |



棚田 PR 事業（棚田ツアー）

- | | |
|-------------------------------|----|
| 事例④ 菅地域振興会 上益城郡山都町 | 8 |
| 事例⑤ 田舎の体験交流館さんがうら運営委員会 球磨郡球磨村 | 10 |



農〇連携事業（田んぼの学校）

- | | |
|-----------------------|----|
| 事例⑥ 宇土市立緑川小学校 PTA 宇土市 | 12 |
| 事例⑦ 八三会・内田心見の会 山鹿市 | 14 |



農〇連携事業（農と福祉の連携推進事業）

- | | |
|-------------------------|----|
| 事例⑧ 社会福祉法人 若葉会 玉名市 | 16 |
| 事例⑨ 社会福祉法人 誠心会 球磨郡あさぎり町 | 18 |



地下水かん養機能等保全活動事業（地下水保全上下流連携活動事業）

- | | |
|-------------------|----|
| 事例⑩ 熊本市南土地改良区 熊本市 | 20 |
|-------------------|----|

優良事例団体座談会開催報告 22

座談会 01 「中山間地域・棚田地域の未来と活動の継続・継承」

座談会 02 「活動の活性化を目指した情報発信の連携方法」

*事例紹介の括弧内は、平成 30 年度（2018 年度）及び令和元年度（2019 年度）当時の事業名を記載しています。

未来につなぐふるさと応援事業（旧 中山間地域サポート推進事業）

《募集時期》 毎年4月以降に募集を開始します。

募集要項等は、「くまもとふるさと応援ねっと」HPでご確認ください。

《事業内容》

補助事業名	補助対象の取り組み	事業主体	対象地域	補助金額
① 指導員等 活動支援 事業	ふるさと・水と土指導員等による「中山間地域住民の意識向上及び保存対策の啓発・普及」及び「棚田地域における保全活動」に関する取り組み	熊本県ふるさと・水と土指導員、地域住民組織、任意団体 など	中山間地域 棚田地域	定額 上限 500 千円
② 棚田 PR 事業	棚田地域の農地等の保全に対する都市住民の意識向上及び保全活動の必要性等の普及・啓発に関する取り組み	市町村、農業協同組合、土地改良区、農業者等が組織する団体、非営利法人、福祉関係者が組織する団体、地域住民組織、任意団体 など	棚田地域	定額 上限 500 千円
③ 農〇連携 事業 (※1)	農業と教育や健康づくり等が連携した「中山間地域住民の意識向上及び保存対策の啓発・普及」及び「棚田地域における保全活動、子ども向け体験交流活動」に関する取り組み	市町村、農業協同組合、土地改良区、農業者等が組織する団体、非営利法人、福祉関係者が組織する団体、地域住民組織、任意団体 など	中山間地域 棚田地域	定額 上限 500 千円
④ 地下水かん 養機能等保 全活動事業	中山間地域における地下水かん養機能等を良好に発揮することを目的とした取り組み	土地改良区 など	中山間地域	定額 上限 1,000 千円

(※1) 本事例集は、旧事業の分類の「田んぼの学校」、「農と福祉の連携推進事業」として紹介しています。

《お問い合わせ先》

- ③、④：むらづくり課 元気な農村づくり班 096-333-2415、096-333-2416
 ①、②：むらづくり課 農村環境・棚田振興班 096-333-2378

ふるさと・水と土指導員の認定

ふるさと・水と土指導員（愛称：ふるさとディレクター）は、中山間地域や棚田地域の農地の維持保全に理解があり、熱意を持って地域活動を実施される方を地域リーダーとして県知事が認定しています。

認定には、市町村長の推薦が必要です。認定ご希望の方は、活動地域の市町村の担当部署にご相談ください。

ふるさと・水と土指導員として活動いただく方々には、以下のような支援やメリットがあります。

- ①地域リーダーとしての県の認定 ②県や国主催研修への公費派遣 ③補助事業の活用



指導員等活動支援事業
(指導員等地域活動支援事業)

指導員 沢 畑 亨

水 俣 市

聞き書き活動は、 ふるさとを未来につなぐ

村おこし施設「愛林館」の館長に全国公募で選ばれ、就任。地域づくりコーディネーターや指導員等として地域活性化に貢献。地域活動の担い手育成のため、地域内外の若手メンバーと地域の文化などの伝承活動に取り組んでいます。

活動の背景と目的

地域の人口は30年程前と比較すると6割程度に減少。

「じいちゃんやばあちゃんの知恵の基礎は、棚田や森でできている。今、暮らしの知恵などを記録に残す活動をやらないと！」という思いから、活動を始めました。

地域住民に棚田や森のめぐみを活かした山間部の暮らしの知恵などの再認識・再評価を促し、それらを共通財産として利活用、伝承することを目指しています。

活動（事業）内容

平成30年度

水俣の海・山・川を聞き取るぞ（山の部）
地域住民の知恵や技、生き方、考え方を学ぶ

- 「聞き書き（聞き取り調査）」の実施
- 成果のとりまとめ手法を学ぶ勉強会の開催
- 「聞き書き」で学んだ料理を作り、田舎の食生活の豊かさを実感するイベント「家庭料理大集合！」（愛林館で開催）に参加

令和元年度

棚田で見つめる「暮らしと学び」合宿
中山間地域の資源を教育の場として生かす教育プログラム作成

- 人材育成合宿（2泊3日）の実施
- 「聞き書き」による地域の暮らしの記録

連携団体

自然とくらし研究会（30～40代の水俣に関係する仲間）
ノマディックスクール「旅する学校」 など

現在の活動と今後の展望

棚田の保全活動、体験学習、「働く田助手」・「食べる田助手」・「大豆耕作団」の募集活動や交流活動を継続的に実施しています。

「聞き書き」の手法を用いて、教育機関等と共同企画が出来ないかと考えています。



「聞き書き（聞き取り調査）」の実施



聞き書きしたことを活かす手法を学ぶ
外部講師によるワークショップ（勉強会）の開催



人材育成合宿「棚田で見つける土地の色、自分の色」
を2泊3日で開催

【連絡先】 熊本県水俣市久木野 1071
水俣市久木野ふるさとセンター愛林館
TEL：0966-69-0485

【情報発信サイト】
HP: <http://airinkan.org/>



ポイント1 暮らしの中にある知恵や文化から地域の豊かさに気づく

棚田や中山間地域での暮らしに着目。地域の関係者に生活の中に息づく知恵や文化を聞き取り、記録を残す活動を通して地域の豊かさに気づく。



地域住民の暮らしの知恵などを学ぶ



聞き書き調査のまとめを冊子として作成

ポイント2 地域内外の若手メンバーが活動の中心として活躍

数年前に移住してきた諸橋さんを中心とした地域内外のメンバーが活動に従事。本活動をきっかけに水俣への移住希望者が増えるなど、人の繋がりがその先の繋がりへと広がっている。



地域住民の思いを聞く地域内外の若手メンバーたち



若手メンバーによる映像記録活動

ポイント3 地域素材にこだわった新たな体験活動

より若い世代に暮らしの知恵や技を伝承するため、「旅する学校」の生徒による合宿等を通して、地域素材を使った工作、食事、アートなど、新たな視点での体験活動が試みられている。



次世代につなごう久木野の棚田風景



里山で採取した材料を使ったワークショップ



指導員等活動支援事業
(指導員等地域活動支援事業)

指導員 榎木 すみ子

阿 蘇 市

帰省者との美化活動が 地域全体に波及

建築家として活動後、阿蘇市波野にUターン。指導員として、ふるさとの風景を取り戻すべく、帰省者や地域住民と連携し、荒地の環境美化活動に取り組んでいます。

活動の背景と目的

耕作放棄地が増えている故郷の風景を見て、「手入れをする人がいないこと」が原因だと気づき、「昔の風景（故郷の原風景）に戻したい。できるだけ人の手が入った土地であってほしい。」という思いから、景観づくりに取り組もうと考えました。

農村地域の環境美化活動を通して地域内の意識向上と地域内外との交流活動の促進を目指しています。

活動（事業）内容

農村地域の環境美化活動を通じた地域内外との交流、体験学習と教育機能の向上

平成 30 年度（阿蘇市波野小園南畑）

- 枯れ木や倒木の片付け
- 隣地境界の確認と明示
- クヌギ、桜、モミジの植樹
- 下草刈り

令和元年度（阿蘇市波野小園大畑）

- 台風の倒木の片付け
- 隣地境界の確認と明示
- クヌギ、桜の植樹
- 下草刈り
- 獣害調査（野生鳥獣のひそみ場にしない美しい景観の維持が課題）

連携団体

波野の交流施設 など

現在の活動と今後の展望

主に以下の活動を継続して実施しています。

- ・ 整備や植樹した場所の維持及び管理活動
- ・ 野生鳥獣のひそみ場にしないための環境美化活動
- ・ 体験や交流プログラム（バギー体験など）の実施

今後は、山や畑がきれいになった成果をみてもらい、更に活動の輪を広げるような取り組みを継続していきたいと考えています。



手作業で倒木の片付け作業をすることからスタート



植樹（下草刈り）活動



獣害調査の実施

【連絡先】 熊本県阿蘇市波野大字小園 795
TEL : 080-9242-8841

【情報発信サイト】

HP: <https://rakuen-namino.com/>



ポイント1 耕作放棄地の再生ではなく植樹で阿蘇の原風景を再現

耕作を放棄（断念）された田畑のどうしても手が入らないような所を整備（植樹）するという考えのもと活動。ふるさとの風景を取り戻したいという思いから、植樹する木の種類も阿蘇に以前より生えていた樹種を中心に選定。



手入れ・植樹された国道沿いの事業対象地



整備する前の状況

ポイント2 家の数だけ帰省者がいることに着目

地域では、高齢化が進み人口も減少しているが、帰省者へ作業参加を呼び掛け、協働で作業を実施。継続的な活動を見た地域の人も、個人や地域活動として荒地の美化活動を行うようになるなど、活動が地域に波及している。



帰省者との協働作業



地域住民による美化活動（枝の伐採）

ポイント3 植樹した場所の有効活用を考える

整備した場所の有効活用及び活動成果を普及・啓発することを目的とした体験・交流の場づくりに取り組み、地域内外の人々との連携づくりを目指して、継続した取り組みとなるよう考えられている。



整備した場所での山菜摘み体験の開催



整備した荒地をバギー体験の場に活用



指導員等活動支援事業
(指導員等地域活動支援事業)

豊かな大江の里づくりの会

天草市

オーナー制による地元特産品の 商品化ビジネスモデルの構築

「稼げる地域づくり活動」のビジネスモデルをつくるため、地元農家や住民と連携し、地域の農産物を活用した加工品づくり（6次産業化）に取り組んでいます。

活動の背景と目的

「地域づくり活動を、賃金が出せるような取り組みにしたい」という思いから、地域の農産物を活用した加工品づくり（6次産業化）に取り組みたいと考えました。

製造した加工品を地域の特産品として販売し、地域活性化と農地保全・利活用の必要性の普及・啓発に寄与することを目指しています。

活動（事業）内容

平成 30 年度

オーナー制によるサツマイモ・ジャガイモ焼酎づくり

地元で昔から生産され、郷土料理の原料にも使われている「アメリカ芋（サツマイモ）」や、ジャガイモの栽培を行い、焼酎の蔵元に製造委託し、オーナー制度による加工品として商品化（6次産業化）に取り組む。

- サツマイモの栽培（25a の農地で 1,230 kg 収穫）
- ジャガイモの栽培（15a の農地で 2,000 kg 収穫）
- 焼酎オーナーの募集
- ジャガイモ収穫体験（交流事業）の実施
- 酒蔵への原料出荷・酒蔵見学イベントの実施
- 焼酎（サツマイモ、ジャガイモの2種類）の商品化

連携団体

地元の農家
酒造メーカー（人吉市） など

現在の活動と今後の展望

新しい取り組みとして「ジン」の商品化を検討しています。ジンの原料はサツマイモとジャガイモを使用し、現在栽培している月桃で香りづけを行う予定です。

大江には、キリシタン文化や椿公園などの歴史・文化・観光資源があり、様々な資源を活用した体験ができる場所です。「体験」をキーワードにアイデアを出し合って、地域内外の人と連携し、地域活性化などに取り組んでいきたいと考えています。



アメリカ芋（サツマイモ）の蔓除去作業



ジャガイモの収穫イベント



オーナー募集のための
交流・体験イベントの開催

【連絡先】 熊本県天草市天草町高浜南 5332
豊かな大江の里づくりの会
TEL：080-1759-5806（担当：大脇文穂）

【情報発信サイト】
HP: <http://ooenosato.jp>



ポイント1 地元農産物を活用した6次産業化のビジネスモデルの試行

「オーナー制」を活用して特産のアメリカ芋（サツマイモ）やジャガイモの加工品（焼酎）づくりを実現。天草出身の画家にラベル製作を依頼するなど、地元の特産品・土産物として販売するための工夫を行った。



天草出身画家のラベルで故郷をアピール



商品と活動経緯を紹介したパンフレットの作成

ポイント2 農家の負担軽減のため重量作物から軽量作物への転換を模索

協力してくれる農家も高齢化が進み、芋類などの重量作物は負担が大きい、軽量作物（月桃）への切り替えと商品化に取り組む。「月桃」の可能性に着目し、サツマイモやジャガイモを原料としたジンの商品化にも活用予定。



県内では珍しい月桃の栽培：平成30年度くまもと里モンプロジェクトを活用



ポイント3 地域の歴史的資源や文化の要素と農業が連携した活動

大江地区の歴史・文化・観光資源などの地域特性を、農産加工品の開発や農業による交流活動に生かし、地域全体を活性化させていくことを目指している。



キリシタン文化をはじめとする天草の地域資源を広報・交流活動に活用



長年の棚田交流活動が 新しい力や活動を生みだす

高齢化・過疎化で地域活動の担い手が減少。これまで継続してきた地域活動を途絶えさせないよう、まちづくり会社や棚田オーナー会メンバー等と連携し、活動の維持・継続に取り組んでいます。

活動の背景と目的

菅地区は、人材が豊富な地区で、全国的にも先駆けて平成8年から「棚田オーナー制度」に取り組むなど、農地の保全・利活用や都市農村交流を目的とした様々な活動に早くから取り組んできましたが、高齢化が進み、活動の担い手が減少しています。

これまで続けてきた活動と参加者との絆を途絶えさせないように、地域の担い手の確保に努めていきます。

活動（事業）内容

菅（すげ）山里からのすげえ～贈り物

平成 30 年度

- 棚田の畦道散歩（ウォーキング）と自然素材を使ったワークショップ（こけ玉づくり、かづらかごづくり）イベントの開催
- 案内ガイドの育成
- クッキング講座の開催（女性メンバーを対象）

令和元年度

- 鈴羊井手散策と自然素材を使ったワークショップ（こけ玉づくり）イベントの開催
- 交流イベントの開催（鮎の瀬大橋開通 20 周年記念イベント）

連携団体

株式会社まちづくりやべ
棚田オーナー会 など

現在の活動と今後の展望

まちづくり会社である「株式会社まちづくりやべ」の協力を得ながら、棚田のオーナーさんたちと長年にわたって築いてきた関係を失わないように、活動を続けていきたいです。



菅の棚田を守る歴史ある「鈴羊井手」の散策



ワークショップ：こけ玉づくり体験



地域の食を味わうクッキング講座

【連絡先】 熊本県上益城郡山都町下市 16
株式会社まちづくりやべ 企画事業部
TEL：0967-72-9400

ポイント1 まちづくり会社や指導員活動が地域の活動を支援

「株式会社まちづくりやべ」や指導員等との協力関係は、地区の高齢化や人口の減少により、担い手が減少している地元の活動や交流事業の継続へ貢献している。



守っていききたい棚田の原風景



まちづくりやべと連携した鴨猪水力発電所ガイド

ポイント2 棚田オーナーが自ら組織化し、活動している

平成28年熊本地震による棚田の破損、高齢化や獣害等で管理作業が困難になった時、長年にわたり関係を育んできた棚田オーナーの皆さんが自主的な活動組織を立ち上げ、現在も地域と協力して棚田の維持を行っている。



棚田オーナーが管理する水田



棚田オーナー会での稲刈り

ポイント3 棚田を介して生まれた様々な団体や人との交流が元気の素

交流事業で、おもてなし担当の女性部や体験活動担当の男性陣など役割分担ができているとともに、長年の交流活動を支えてきた「女性部の輝き」が菅の活動の源になっている。



女性部によるクリスマスリースづくり



棚田オーナー会メンバーが定期的に企画する体験学習会



棚田 PR 事業
(棚田ツアー)

田舎の体験交流館
さんがうら運営委員会

球磨郡 球磨村

交流施設運営が 地域の棚田の再生を後押しする

日本の棚田百選に選定された「松谷棚田」の遊休農地対策や環境保全の意欲醸成を図るため、棚田オーナー制度を導入。棚田保存会等と連携し、都市農村交流活動に取り組んでいます。

活動の背景と目的

「棚田オーナー制」は8年前に棚田の再生と遊休農地の再生・活用を目的に取り組み始めました。

米を買ってもらうというシステムで、購入口数で募集し、田植え、稲刈り、収穫祭の交流事業を実施してきました。村に来て滞在してもらうことで、村の良さや農村の現状への理解醸成に寄与することを目指しています。

活動(事業)内容

日本の棚田百選「松谷棚田」
日本で最も美しい村の棚田再生プロジェクト

平成 30 年度

- 棚田オーナーによる田植え・稲刈り・掛け干し体験
- そば打ち体験ツアー、年越し用そば打ち体験の実施
(遊休農地再生を目的としてそばを栽培)

令和元年度

- 棚田オーナーによる田植え・稲刈り・掛け干し体験
- 棚田のそば打ち体験ツアーの実施
- 綿花の機織り体験ツアーの実施
- 棚田のそば打ち体験ツアー

連携団体

球磨村、球磨村棚田保存会、くまむら山村活性化協会

現在の活動と今後の展望

綿花はイノシシが食べない作物なので、耕運機が入らない遊休農地(棚田)での栽培を試みています。収穫した綿花は体験活動での利用を考えています。

また、棚田ツアーや棚田米の販売などに力を入れ、地域一体となって「黄金の棚田の復活」を目指したいと考えています。



棚田オーナーの田植え体験



そば打ち体験ツアー



綿花の機織り体験ツアー

【連絡先】 熊本県球磨郡球磨村大字三ヶ浦乙 629 番地 3
田舎の体験交流館 さんがうら運営委員会
TEL : 0966-32-0443

【情報発信サイト】

HP: <https://sangaura.com/>



ポイント1 交流施設の活動が棚田の保全活動の幅を広げる

地区の役員で構成される運営委員会が交流施設の指定管理者となり、運営的に安定することが活動の幅を広げることに繋がり、棚田オーナー制の拡大のための協力体制の確保や、新たな取り組みを生み出している。



守っていききたいふるさとの原風景



地域活動の拠点となる廃校利用施設
「田舎の体験交流館さんがうら」

ポイント2 獣害対策も兼ねて、コメだけでなく綿花やそばも栽培

米だけでなく、獣害対策等も兼ねて、ソバや綿花の栽培を行なっている。収穫物は体験交流の素材にする等の工夫もしている。



イノシシなどが食べない綿花の栽培



ソバの栽培

ポイント3 9つの棚田保存会と地域住民がオーナー田の作付け等に協力

行政と連携し県外在住の村出身者等へ呼びかけ、遠隔地のオーナーの取り込みに成功するとともに9つの棚田保存会と地域住民によって棚田の保全・管理を行うなどの協力体制ができている。



棚田保存会の協力で実施している稲刈り体験



棚田保存会による棚田の管理作業



農〇連携事業
(田んぼの学校)

宇土市立緑川小学校 PTA

宇 土 市

地域みんなで支える 小学校の農業キャリア教育

地域全体で子どもを育てるという考えのもと、地域住民・農家と連携して「田んぼの学校」を通して、苗作りから収穫までの一連の米づくりを体験する学習に取り組んでいます。

活動の背景と目的

子どもたちに農業や地域の歴史・風土に関心を持ってもらうために、学校が米づくり等の基本的な作業に責任を持って取り組むプログラムを地域とともに実施しています。

この活動を通じて地域資源や環境保全の大切さを理解できる子供に育てることを目指しています。

活動（事業）内容

熊本県中山間地域サポート推進事業（田んぼの学校）

平成 30 年度・令和元年度

■米作り（もち米）農業体験

（塩水選、苗床づくり、田植え、水管理、草取り、稲刈り）

＊5年生が担当となり、全校生徒が参加

■サツマイモ苗植え、芋ほり

■地域住民交流（収穫祭：餅つき）の実施

米づくりを通じた地域への参加として、公民館活動の餅つきにも子どもたちが作った米を使い、一緒に餅つきを行っている。



種籾の選別作業（塩水選）の指導



手作業と機械作業での稲刈り

連携団体

学校運営協議会委員等学校支援者
地域住民（公民館活動との連携）
宇土市農林水産課

現在の活動と今後の展望

米づくりを通して、子どもたちに農業、水や地域について学んでもらいたいと考えています。

地域で子どもを育てる活動として、今後も活動を継続していきたいです。



サツマイモの苗植え

【連絡先】熊本県むらづくり課
TEL：096-333-2415

【情報発信サイト】
HP：<https://www.city.uto.lg.jp/school/midorikawa-es/>

ポイント1 種籾の選別から稲刈りまで、1年生から6年生全員が参加・体験

学校に隣接する農地を借りて、地域の農業者等の協力のもと、種籾の選別、苗床づくり、田植え、水の管理、稲刈りまで、5年生を中心に全校生徒が参加し、稲作作業のすべてを体験できるようにプログラムが組まれている。



「田んぼの学校」で利用している水田



5年生による水管理作業

ポイント2 地域行事として、地域とのつなぎ役になる

学校（日程調整）、区長・公民館長（行事企画）、若手農業者（稲作指導）等と連携し、学校の行事のみならず地域の年間行事として、地域住民と一緒に米づくりや門松づくり体験などを実施しており、地域活性化に貢献。



稲わらを活用した門松づくりを通じた地域間交流



子ども達が収穫した米を使って地域住民と餅つき体験

ポイント3 「田んぼの学校」卒業生の若手農業者も指導にあたる

「田んぼの学校」卒業生である若手農業者が農業指導を行うことで、農業キャリアの養成に役立てたり、地域のお年寄りも参加・協力する体制が構築されており、地域の継続的な取り組みとなっている。



地元の若手農業者の協力による稲刈り作業



子どもたちと地域の高齢者との交流活動



農〇連携事業
(田んぼの学校)

八三会・内田心見の会

山 鹿 市

新たな視点で 交流事業の継続にトライする

地域活性化のために都市農村交流に取り組んでいた「八三会」。活動を引き継ぐ「内田心見の会」は、地域住民と連携しながら、その活動を絶やすことなく、新たな交流活動を目指しています。

活動の背景と目的

農村集落の現状を都市住民に理解してもらい、生産者の顔が見える農産物をPRするために交流事業を実施し、今後の地域づくりや農業経営に活かしてきた「八三会」は、平成30年に解散。その思いを絶やすことなく、一人ひとりの顔が見える新たな交流活動の受け皿として「内田心見の会」は立ち上げられ、新しい視点を加えて、交流活動を模索し続けています。

活動（事業）内容

山鹿市菊鹿町農業体験交流

平成30年度（八三会）

- 都市住民を対象とした農業体験交流
(棚田で米づくり：田植え、稲刈りなど、年4回開催)
- 菊芋掘り体験

令和元年度（内田心見の会）

- 都市住民を対象とした農業体験交流
(棚田での米づくり：田植え、稲刈り、掛け干し体験)
- 交流事業
(稲の成長観察、栗拾い体験、菊芋掘り体験等)
- 収穫祭（餅つき体験）の開催
- *農産物の加工品開発のヒントを得ることを目的とした参加者アンケート調査の実施

連携団体

山鹿市、地元住民
福岡のフリースクール、熊本市内小学校関係グループ
など

現在の活動と今後の展望

地域の他団体と連携しながら、相良観音や菊鹿ワイナリー等の地域資源の活用など、新たな視点を加えて、内田地区を訪れる人や子どもたちに、この地域の自然や歴史を教えるため、交流活動を継続していきたいです。



八三会での交流活動



掛け干し体験



栗拾い体験

【連絡先】 熊本県むらづくり課
TEL：096-333-2415

ポイント1 新たなカタチで「ハ三会」の交流事業を引き継ぐ

農業体験などの都市農村交流事業を始めた「ハ三会」の意義や思いを引き継ぎ、これまで続けてきた交流活動を次につなぐために有志が「内田心見の会」を作り、活動を継続している。



棚田を守るための交流・体験活動の継続



棚田米を使った餅つき体験

ポイント2 地元の協力農家が棚田での活動や管理を支援

事業の企画運営は、事務局として「内田心見の会」が行い、棚田での活動や管理は、地域の協力を得て実施。



交流事業への地元農家の参加



地元農家による交流事業参加者への田植え指導

ポイント3 これまでの交流活動から生まれた応援団の活動支援

体験交流活動の参加者を募集する際は、地元と関わりのある外部の人材やこれまでの体験交流活動に参加された方が、参加者の呼びかけや情報発信などに継続的に協力している。



熊本市の小学生親子グループ参加の交流事業



長年続く福岡のフリースクールとの交流事業



農〇連携事業
(農と福祉の連携推進事業)

社会福祉法人 若葉会

玉名市

異業種連携による 商品づくりのビジネスモデル

福祉施設利用者の仕事づくりやコミュニティ創出を図るため、玉名 LFC（県北地域で活動する多職種団体）の一員として、地産地食イベントの開催や加工品づくりに取り組んでいます。

活動の背景と目的

農村地域の担い手不足や休耕地増加等の社会的課題の解決を目的とした活動として、福祉施設と多分野の人材連携による持続的な農業の確立を目指しました。

「地産地食」をキーワードに付加価値の高い加工品開発、障がい者の仕事づくりと所得向上、生産～加工～流通の仕組みづくり、地域コミュニティづくりを目的に活動しています。

活動（事業）内容

農業で最高のフクシゴトを創る！

平成 30 年度

- 地元農家・関係団体等との連携体制の構築（玉名 LFC）及び「地産地食」の取り組み実践
- 自然栽培農家と連携した農業
- 障がい者の活躍の場の拡大や所得向上を図るための野菜の加工品づくり
- 販売イベント「オーダーナイトマルシェ」の開催

令和元年度

- 「地産地食」の取り組みによる独自性のある地域づくりの実践
- 自然栽培農家と連携した農業
- 障がい者の活躍の場の拡大や所得向上を図るための野菜の加工品づくり
- 販売イベント「地産地食ナイト」の実施

連携団体

玉名 LFC メンバー（自然栽培農家、地元農家、シェフ、デザイナー、企業経営者）、行政、学生 など

現在の活動と今後の展望

玉名 LFC の一員として、こだわりをもった商品（農産品・加工品）づくりにプライドを持って取り組んでいます。施設内に加工場を作ったことで、取り組みや作業の「見える化」にもつながりました。地域の中で自分が働いたことが、しっかり見えるような形をつくりたいと思っており、それが、結果的に労働賃金を上げていくことにつながると考えています。



野菜づくり



加工品づくり



販売イベント「地産地食ナイト」

【連絡先】 熊本県玉名市溝上字田代 527 番地 1
社会福祉法人 若葉会
TEL：0968-74-1628

【情報発信サイト】
若葉会



ポイント1 地産地食をテーマに集まった専門家グループとの連携

農業に着目し、障がい者の仕事を作るとともに農家、シェフ、デザイナー、販売業者等の専門家グループ（玉名LFC）を立ち上げ、「地産地食」をテーマとして地域を盛り上げようとしている。



玉名LFCメンバーとの話し合い



玉名LFCでの販売・イベント活動

ポイント2 クオリティーの高い加工品や農産物を目指す

農家が取り組みたいけれど余力がなくてできない加工品づくりに着目し、専門家グループで商品化を検討。クオリティーにこだわりをもった商品（農産物・加工品）づくりに取り組んでいる。



土づくりにもこだわった野菜の栽培



加工品開発のための試食会

ポイント3 施設移転を機に多品目の栽培や加工できる体制づくりに取り組む

施設の移転を機に、加工所の新設や、SDGsに配慮したプランター（サーキュラープランター）での作物栽培によるエコ農業等、活動の持続・発展と地域の活性化に向けた新たな活動に取り組んでいる。



サーキュラープランターづくり



地域の仲間と取り組むエコ農業



農〇連携事業
(農と福祉の連携推進事業)

社会福祉法人 誠心会

球磨郡 あさぎり町

カスミソウの栽培が 障がい者の可能性を育む

福祉施設利用者のスキルアップ、所得向上や心身の機能回復を図るため、花き栽培農家や地元JAと連携し、休耕地を活用したカスミソウ栽培に取り組んでいます。

活動の背景と目的

一般就労が難しい障がい者の方々へ農業という就労の場を提供することを目的としています。

耕作放棄地を活用したカスミソウ栽培に取り組むことで、土や花など自然とのふれあいによる心身の機能回復と、人吉球磨地域での当施設の取り組みとして誇りを持ち、働く喜びや生きがいを感じてもらうこと、障がい者の工賃のアップにつなげることを目指しています。

活動（事業）内容

障がい者の方々の働く喜びと心身の機能回復

平成 30 年度

- 耕作放棄地を活用、農家との連携によるカスミソウのハウス栽培
(圃場整備、畝づくり、定植など)
*ハウス 1 棟を増設し、栽培面積を 250 m²から 416 m²に拡大
- 収穫したカスミソウの販売（秋と春の 2 回）

令和元年度

- カスミソウのハウス栽培
- 障がい者の工賃アップに繋げるため、栽培面積の拡大に向けた準備作業
- 栽培技術の向上への取り組み

連携団体

花き栽培専門農家（地元、宇城市三角町）、JA くま
県南広域本部球磨地域振興局農業普及・振興課 など

現在の活動と今後の展望

栽培面積の拡大のため、ハウスを 2 棟増やす予定で準備を進めていましたが、令和 2 年頃からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大による花きの需要減少に伴い中断。状況をみて再開を予定しています。



定植作業



採花摘みの作業



収穫時期のカスミソウ

【連絡先】 熊本県球磨郡あさぎり町上西 688 番地
社会福祉法人 誠心会 「みずき園」
TEL : 0966-43-1688

【情報発信サイト】
HP: <https://mizukien.com/>

ポイント1 年間を通して栽培できるカスミソウに着目

施設利用者の新規事業として、休耕地を活用したカスミソウの栽培に取り組み、地元 JA の協力で福岡に出荷。カスミソウ栽培は施設利用者の喜びとなり、心身の機能的効果は高く、プライドを持って作業に取り組んでいる。



カスミソウの栽培ハウス



収穫したカスミソウ

ポイント2 専門家の協力が高い品質の花づくりに貢献

施設職員が花き農家（宇城市）で研修を受け、ハウスで現場指導を実施するなど、花づくりのノウハウを職員と施設利用者が共に学んでいった。様々な専門家の指導など、多方面の協力で高品質のカスミソウが出荷できている。



花き農家（宇城市三角町）での栽培研修



施設職員の支援を受けながらの選別作業

ポイント3 稼げる農業を目指して地元 JA などとの協力体制を構築

稼げる農業～施設利用者の働く喜びと賃金アップ～を目指して、地元関係者の協力のもと出荷時期の見極めや品質の維持・管理などの工夫が続けている。また、休耕地を利用した栽培規模の拡大を検討している。



守っていききたい地域の農業景観



箱詰めしたカスミソウを JA へ出荷



地下水かん養機能等保全
活動事業
(地下水保全上下流連携活動事業)

子どもたちと行う 水を育む流域連携活動

熊本市南土地改良区

熊 本 市

農地等が有する地下水かん養機能の普及・啓発を図るため、地域活動団体等と連携し、都市住民を対象にした保全林の下草刈り体験や土地改良施設見学会開催に取り組んでいます。

活動の背景と目的

熊本市天明地区の農業者、漁業者、地域住民等は、水環境の保全のため、天明地区を流れる川の上流域において、「天明みらいの森（山都町）」等の森づくり（植林・育樹）に取り組んできました。

その活動の一環として、子どもたちに活動を継承し、住民の理解をより深めていくことを目的に学習・体験活動を実施しています。

活動（事業）内容

暮らしに役立つ地下水を学ぼう

平成 30 年度、令和元年度

- NPO、企業との協働による保全林（*）の下草刈り
 - 白川流域の土地改良区等との連携会議（県民に対する農業用水と地下水の関わりの周知策等を協議）
 - 緑川流域の小学生を対象にした河川（緑川）上下流での水質調査・生物調査、森と水、海とのつながりについての学習活動（土地改良施設の見学）
 - 緑川流域の小学生を対象にした地下水かん養の講話、下草刈り体験、森林講話
- （*）阿蘇市の白川水源地にある水土里ネットの森

連携団体

白川流域の土地改良区、天明環境保全隊（*） など

（*）地域住民、農業団体、環境団体（NPO）、学校、福祉事務所で構成された活動団体

現在の活動と今後の展望

地域住民の協力は欠かせません。子どもやお年寄りが参加できる雰囲気を中心掛け、子どもたちに活動を継承していくことに努力しています。上流域の見学も含めた 1 泊 2 日のプログラムも考えていければと思っています。



森と水、海とのつながりについての学習
（土地改良施設の見学）



保全林の下草刈り（阿蘇市：水土里ネットの森）



下草刈り体験（天明みらいの森）

【連絡先】 熊本県熊本市南区奥古閑町 2035
熊本市南土地改良区
TEL：096-223-0204

【情報発信サイト】
HP: <https://midorinet-km.jp/>
水土里ネット熊本市みなみ

ポイント1 地域住民などで構成される天明環境保全隊との協力・連携

天明地区には、「天明みらいの森（山都町）」等での森づくり活動による長年蓄積してきたノウハウがあり、現在では、土地改良区が主体となって、天明環境保全隊の協力・連携のもと、水環境の保全活動を行っている。



下草刈り体験の現場へ



天明環境保全隊

ポイント2 環境団体（NPO）や学校との連携による学習活動が地域に広がる

子どもを対象にした水循環を学ぶ活動を、環境団体（NPO）や学校と連携して行っており、地域全体での活動体制が構築されている。また、活動の継続により、活動エリアも緑川流域から白川流域まで広がっている。



海苔養殖場で水環境を学ぶ



中学生と NPO の草刈り活動

ポイント3 学校や地域の恒例行事となり定着している

学校行事と連携した植樹、下草刈り、水環境の学習など、一連の地下水保全上下流連携につながる活動が、地域の恒例行事として定着し、継続されている。



水質調査活動



「天明みらいの森」での下草刈り体験

本事例集でご紹介した活動団体等の方々を対象に、横のつながりをつくること、それぞれの活動・団体等の強みや共通の課題を共有し今後の活動展開に役立つようなヒントを得ることを目的に、リモートで座談会を開催しました。座談会の中で出された意見の一部をご紹介します。

テーマ01：中山間地域・棚田地域の未来と活動の継続・継承

活動を継続・継承していくために



若い世代への活動の継承や新たな取り組みへのチャレンジ

- 水俣への移住者が発案し、地域内外の若者が中心となって、聞き取り調査等を行った。大勢ではないけど、**彼らのような人がいるので、活動の場をつくっていい**と考えている。
- 地域特産のサツマイモ、ジャガイモを活用した焼酎づくりをオーナー制で行なったが、高齢者では重量作物の栽培は大変で、生産者としての利益があらなかった。**軽量作物導入にも取り組み、新たな商品開発**を行っている。



地域と関わってきた人々との絆を絶やさない。
地域の状況にあった活動

- 地域の高齢化率が70%となったが「まちづくりやべ」の支援を受けながら、身の丈に合った活動を続けている。平成8年から「棚田オーナー制度」に取り組んでいるが、**オーナーが田の管理まで自主的に行う形に変化したので**、オーナーがやめると言うまでは続けようと思っている。
- 廃校利用の交流館を活動の核として、**体験・交流活動や地域の生活支援活動**を行っている。いろんな方の協力のもと**松谷棚田の再生・保全活動**を続けていきたい。



地域全体で田んぼの多面的機能や生業としての農業伝承

- 都市部の家族連れを対象として体験・交流活動を続けていたが、時間的な制約もあり、田んぼの管理作業に携わってもらうことは難しく、**気持ちだけが先行**した。活動組織の継承も考えていく必要があると思う。
- 宇土市では、市全域の小学校で「田んぼの学校」に取り組んでいる。緑川小校区では、**「地域全体で子どもを育てる」という考えで、学校と地域が連携**した活動となっている。



福祉と農業が結びついた、新たな農業の展開

- 花き（カスミソウ）栽培は自然が相手なので天候などには苦労するが、**市場価格の高い時に出荷できるように栽培時期を調整するなどの工夫**をしている。今後は、栽培面積を増やしていきたい。
- 障がいを持った方々が農業や加工品製造に取り組むことで、福祉のイメージを変えつつ、**多業種と連携しながら、福祉が求めている「地域ワークのモデルづくり」**に取り組んでいる。



次世代につないでいくための地域ぐるみの活動

- 緑川、白川の水源地域で小学生を対象とした体験学習を行っている。どんぐり拾いなどの**楽しい遊びの要素も取り入れながら、子どもたちに涵養林などの保全活動を継承**していくことができたらと思っている。

テーマ 02：活動の活性化を目指した情報発信の連携方法

現在行っている情報発信の手法と課題

- Facebook やメルマガで情報を発信している。新聞に記事を掲載してもらった際も反響は大きかったが、最終的には口コミの影響が強いと思う。
- Facebook、Twitter や Instagram などでも情報を発信しているが、やはり口コミの影響が強いと感じている。行政と連携し、県外在住の村出身者にも情報を発信している。
- 情報をうまくつかんで、この地区で農業をやりたいという人に来てもらえるようにしたいと思うし、地域の新たな活動の芽に肥しを与えられるような情報発信が出来たらいいと思う。
- 行政の情報発信サイトや様々なツールを用いて情報発信を行っているが、一方的に発信するだけであり、反応が見えない。実際のつながりをつくるのは個人的なつながりだと思う。
- 広く情報を発信したほうが良いと思うが、ターゲット層に合わせたツールを使う必要がある。
- イベントを開催する際は、近隣の都市住民をターゲットにしているため、アナログ手法の新聞広告やチラシ媒体で告知している。対応できる数は限られているため、ターゲットを絞り込んで、告知の手法を考えている。
- 情報発信はこまめにする必要がある。HPも更新し、見てもらう工夫が必要。Facebook や Twitter などができる方に、団体へ加入していただくのが一番だと思う。
- 情報発信を行う際のルールにも注意が必要。
施設利用者の取り組みの様子などを発信する際は、保護者の方への事前説明や写真の掲載方法などに注意している。
- 情報発信は地域中心。「まず、地域内を固めよう」という考えで取り組んでいる。

様々なネットワークを活用した「口コミ」の影響力は強い。

ファンとの継続的な関係づくりが重要！

日々進化していく情報発信ツール。

ターゲットに合わせた選択を！

情報発信を行う際は、ルール・マナーに注意！

地域内への情報発信を大事に！

情報発信の連携と新たなつながりをつくるために

- 本事業を活用して取り組んでいる活動の内容や地域の情報を発信するため、Instagram や Twitter で記事を投稿する際に、共通のハッシュタグ（#ふるさとくまもと）をつけることを提案し、座談会の場でチャレンジしました。
- 共通のハッシュタグ（#ふるさとくまもと）を使うことにより、同様の活動を行っている団体等の活動情報を簡単に検索することができるようになりました。
＜25 ページで情報発信の輪をつなげる方法をご紹介します。＞



活動継続のために活用できる支援事業等の紹介

■未来につなげる「くまもとの中山間地域農業」 支援策逆引き集

<令和3年（2021年）6月版>

「中山間地域等における魅力と活力あふれる持続可能な農村づくり」のための様々な支援メニューをまとめたものです（毎年、内容を更新しています）。

熊本県のHPからダウンロードできます。

<https://furusato.pref.kumamoto.jp/kiji003102/index.html>



活動を継続・展開していくときに役立つ作業

次のステップへ進むために活動の評価を自ら行ってみる

この事例集を発刊するにあたり、平成30年度（2018年度）と令和元年度（2019年度）に本事業を活用して活動された団体にアンケート調査を実施し、以下の6項目について10段階で自己評価をしていただきました。未回答や6項目の一部に未回答がある団体を除いた54団体の結果をご紹介します。

赤の線が事例集掲載団体（10団体の平均）で、青の線がその他の回答団体（44団体の平均）です。概ね似たような傾向で、事業手法の独自性、広報手段の多様性及び事業の継続性に若干の差が見られます。その中でも、事業・組織の継続性については、熊本県内では令和2年（2020年）2月から拡大した新型コロナウイルス感染症への対応によって差がでてきたのではないかと考えられます。

このように第3者的な目線で、自らの団体の活動をスタッフ同士で評価することは、次のステップに進むときや活動のレベルアップのヒントになります。

事業手法の独自性

団体や地域の特性や個性を活かしたものになっていたか

事業成果の波及性

地域への波及効果や参加者の満足度など事業実施の効果はあったか

事業・組織の効率性

組織内での役割分担や情報共有はできていたか

事業・組織の継続性

事業の改善・継続のための振り返りや次世代の育成が図られていたか

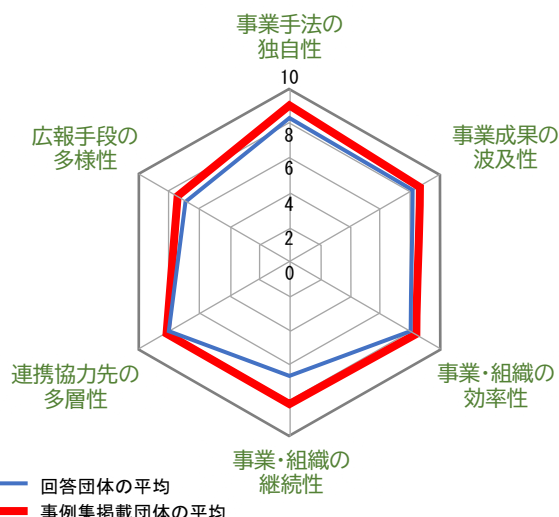
連携協力先の多層性

企画や実施段階で、地域団体や外部団体等との連携・協力体制はあったか

広報手段の多様性

事業の周知は、地域内外の人や参加対象者等にうまく広報されたか

地域づくり6要素のレーダーチャート



活動の内容を情報発信するときに活用いただきたいツール

■熊本県むらづくり課の情報発信サイト

熊本県の農山漁村地域で開催するイベント、グリーンツーリズム情報、研修会や補助事業の募集などの情報を県民の皆様に向けて公式 HP、公式 SNS で随時発信しています。

本事業及び関連する熊本県の事業を活用し、イベント等を開催される際や取り組みの広報を希望される際は、熊本県むらづくり課の公式 HP、公式 SNS を用いて情報発信することもできますので、ぜひご相談ください。



ホームページ「くまもとふるさと応援ねっと」



活動の支援策や参考となる事例、県民の皆様への広報資料など、さまざまな情報を掲載しています。

「くまもとふるさと応援ねっと」で公開している広報資料（一部）



棚田 PR 冊子：HP よりダウンロードできます

棚田からのレター
(棚田継承動画/YouTube)



熊本県公式 SNS

◆Twitter アカウント ID：@kumafuruoen

◆Instagram アカウント ID：@kumafuruoen

「#ふるさとくまもと」で情報発信の輪を広げませんか？

Instagram や Twitter を利用して情報発信をする際に活用できる共通のハッシュタグ「#ふるさとくまもと」をつくりました。

投稿記事を作成する際に、本文の中に「#ふるさとくまもと」を入れていただくことで、同様の活動を行っている方々の情報を瞬時に検索することができるようになり、つながりづくりに役立てることができます。また、「#ふるさとくまもと」の記事を相互共有（シェア、リツイート）することで、より多くの方に情報を発信することができます。

イベントや活動内容等を情報発信する際には、ぜひ、「#ふるさとくまもと」をご活用ください！

【Instagram で情報発信する際に活用できるその他の便利機能】

Instagram には、ハッシュタグの他にも便利な機能があります。その中の1つである「タグ付け」では、投稿記事に、関連するアカウントを紐づけ（アカウント名を表示）することができます。連携団体のアカウントで投稿を行う際に、自身のアカウントをタグ付けしてもらうことで、より多くのユーザーに自身のアカウントのプロフィールを訪れてもらうことができます。

発行 者：熊本県
所 属：むらづくり課
発行年度：令和 3 年度

令和 4 年（2022 年）3 月作成



熊本県農林水産部
農村振興局 むらづくり課

熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
TEL 096-333-2415 FAX 096-385-5025